

安全・安心まちづくり

『江戸の大地震対策』 その二

講師 一龍斎貞花

広島はじめ、北から南まで大きな災害が続いている。広島は避難命令が遅かったという意見の一方、夜中豪雨の中避難は無理の声も。空振りでもないから避難命令をともいうが、大地震の前日3月10日避難したが何事もなく、翌11日高台へ逃げろといわれても、前日大丈夫だったからとそのまま避難所にて被害にあった人も。

空振りが2度・3度続けば、イザの時役に立たない恐れもある。

礼文島では、役場の職員不足で避難命令が出せなかったという。

大都市ほど、役所のある所に居住

者は少い。皆さんの会社も、職住一緒でない方が多いと思います。緊急通報30秒後に大地震、30秒なんてアツという間。筆筒倒壊防止をしますか。実は私の家はなにもしていません。火災報知器とホーム保安灯のみ。一般家庭では筆筒の上に物を乗せている家がほとんど。倒れなくても、物が落ち下で寝ていけば大怪我のもと。乾パンを保存期限前に3回入れ替えた方ありますか。3回どころか1回だけが多くの現状。

国と東京都の地震被害想定

首都直下マグニチュード7・3

の大地震が起きると、23区の7割は震度6強の揺れ。昼間人口約1,500万人(居住者約1,300万人)約600万棟のうち、耐震必要建物100万棟、約30万棟全壊、このうち約19万棟は火災による全焼

犠牲者約9,700人、負傷者14万人強、帰宅困難者500万人強。約5割の家庭・事務所で断水、停電。火力発電所の停止により電力供給量半減し、不安定状態が1カ月以上、下水道1割使用不可。震災当日、携帯・固定電話はほとんど使用不能。電子メールは遅配。主要道路1〜2

日不通、一般道も数日間麻痺。地下鉄は1週間、JR在来線・私鉄は1カ

月ほど運航停止。直接・間接経済損失は95兆円強という。各都市でも、同じような割合の被害が想定されましょう。

被災社員家族の生活環境の復興をどうするか。行政だけに頼るのでなく、日頃からの災害対策、自助能力が必要であろう。

広島のと砂災害は予測された危険地帯であったのに開発したからというが、行政が認可している。

仕事の事故・ミスも、過去と同じミスを冒すことが応々にある。

歴史を活かす対策をするか、しなやかにかかってくる。

宝永の大地震・大噴火

元禄大地震から4年後、1707年の宝永大地震(マグニチュード8.6)大坂市中は津波などで、人口約35万人のうち死者2万1千人、死亡率6%と全国最多。3,537戸倒壊。そして富士山が大噴火。宝永5年正月から、幕府の復興が始まり、被害の激しい駿河、相模の国を直轄領とし、灰砂除去資金として諸国に「百石につき二両」の義援金を課し、その額は四十万両。しかし被災地救済にはわずか十六万両。残り二十四万両は、江戸城大地震被害修理に流用。財政ひっ迫していた幕府は、噴火被害救済名目で金を集めたことになり、元禄大地震の際の庶民のための復興対策と全く違う対応。

富士山麓の田沢村では、降灰で田畑を失い宝永5・6年の餓死者50人。生き残った450人もやせ衰え、歩くのがやっとの状態、巡視した関東郡代伊奈半左衛門は、幕府の対応がよくないところから、窮状を見かね、

幕府に無断で代官所の貯蔵米を配布。

村民大喜びの中、伊奈はお咎めを受け自害。噴火から5年後、時に四十歳。

灰を取り除き、村が立ち直るのはそれから30年後。公的支援がいかに大切であるかということ。

企業が、被害社員家庭にどれだけ手を差し延べられますか。

三陸地震と普代村村長

1896年明治三陸地震による津波で、岩手県普代村は(楽天銀次選手の出身地)、死者・行方不明者1,010人、津波の高さ15・1メートルだった。1947~87年まで40年間村長をつとめた和村氏は、「15・5メートルの防潮堤が必要」、これに対し「津波が本当にくるのか」「そんな高い堤防不要」と非難ごうごう。

東日本震災で被害を被った土地でさえ、高い堤防構想に「景観が損なわれる」と反対する人もあるほど。しかし村長はひるまず独断で建設を

押し進め、二つの防潮堤の総工費5,837万円、堤防の内側に一般

住宅が軒を並べ、水門は35億6千万円で82年完成。最終的に県を動か

し、村が総工費の約1割を負担する公共事業。3月11日の津波で、村の1,120軒浸水ゼロ、死者もゼロ。大

大評価。水門は地震の影響で停電し、ゲートは手動に切り替り、津波到達までに完全に閉まらず、水門を越え

たが、1933年の昭和三陸地震以後に植樹した防潮

林の松が、がれきを含んだ津波を止め、巨大防潮堤だけで防いだのではなかった。

3月11日の津波もバイパスのおかげで逃げる事が出来た人が多い。コンクリート不要をいった前政権が続いていたら、防災対策は大

変ということになったので

は。

山崩れ、崖崩れの土石

流は、3倍流れるという。200メートル崩れると、土砂は600メートル流れる

るわけで、その範囲内の家

屋は被害の恐れ大というわけ。土地代が安いからと安易な工場建設、自宅建設など、十分に考慮が必要です。社員を守り、会社を守るための対策を。

わたしも真剣に考えなくっちゃ。

岩手県普代村

